

<ひとこと>いよいよプロ野球のキャンプが始まりました。中畑バイスターズ、注目ですね!

## 児童養護施設を訪問して



県内には17箇所の子童養護施設(略:施設)があります。今回は「野の花の家」と「かずさの里」という2施設を訪れる機会があり、施設を取り巻く現状を垣間見ることができました。昨年末に千葉県では児童養護施設を新たに2箇所募集しましたが、恐らくそれでも施設が足りないという社会的状況があります。余談ですが、施設をやりたいと名乗りを上げるには、土地は自前であることなどの縛りがあり、非常にハードルが高いことにも驚かされます。

お話を伺うと、措置費は運営にかかる費用の7、8割をまかなえる程度であり、残りは寄付頼りという現状で、個人・後援会などの支援なしには運営できないと厳しい現状があるとのこと、しかし語る言葉は揺るがぬ信念を感じるものでした。「野の花の家」はアジアと日本が一貫したテーマで取り組んでいること、「かずさの里」はキリスト教精神に基づいていることなどそれぞれの特色があり、興味深いお話を聞くことができました。

校や地域に苦情を言われたときに、どう育つか見てほしいと伝え続け、理解を得られるようになったこと、今は非虐待児が8割で、暴れるなどの目立つ行動ではない分、一層対応が難しい状況があること、また情緒障害・発達障害・知的障害の子どもが増えており、特別支援学級がほとんど施設の子であるなど、予測していたものの、上回る現状がありました。

施設はほぼ家庭に戻れない子どもたちにとって、家庭的な生活を送る場所です。日常の面倒を見る職員の定着が課題になっていくという現状はさらに子供たちの現実を厳しくしていることで、収益事業ではない施設運営であり、職員の待遇をきちんと保障する措置費が必要です。

再び余談ですが、施設職員募集で来た若い人が、例えば掃除機の使い方、雑巾の絞り方もわからないという場合がしばしばある。そこから教えなければいけないことはそこだけ教えれば何とかなるのではなく、それ以外の事・場面でも就業以前の課題があるという話に、さらに募集しても来ない、人材不足な

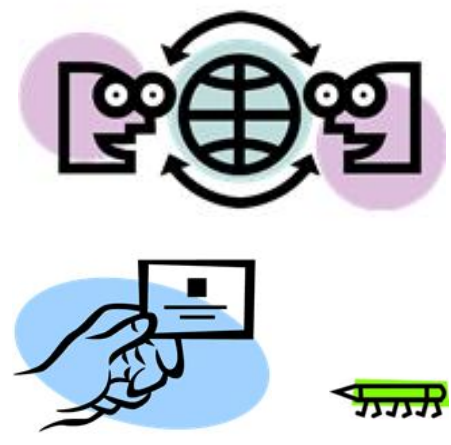
ど、福祉関係の職員採用の厳しさが関係者にとっては共通の課題であるように思います。どこをとってもあらためて家庭の機能の大きさを考えているとの言葉も印象に残ったことでした。



## ユニバーサル就労ネットワークと「整と記念講演会

1月17日(金)に標記会議が開催されました。当日は各自自治体の警察の方や市役所の共生担当部署の方、民間でDV問題にとりくんでいらっしゃる団体、中にはシエルトをお持ちの団体もいらつしやいました。

ユニバーサル就労についてはこちらでも何回かお伝えしてきましたが、正式に「ユニバーサル就労ネットワークちば」という名称で、①相談・コーディネート事業、②広報・啓発・研究活動、③ユニバーサル就労基金(仮称)の設置準備、の3つの事業を掲げ発足しました。現在は34団体・個人会員8名からスタートします。設立総会後、講演会がありました。講演会は内閣府共生社会政策担当・政策統括官である村木厚子氏。280名の参加で、立ち見が出るほどの満員盛況でした。



## DV被害者支援連絡会議



①DVの認知度は高まったものの、特に精神的経済的暴力がDVと認識されていないこと等から、「DVの根絶に向けた啓発の充実」

②若い世代、高校生大学生に広まりつつあるデートDVであるが当の若者世代がデートDVの認知度が50%以下であることから「若者を対象とした予防施策の充実」

③DV被害者の生活再建には、経済的支援(生活保護や各種手当)だけではなく、精神的ケアを含めた地域での見守りが重要であることから「切れ目の無い支援体制に向けた市町村との連携強化」以上の重点施策に対して詳細な対応策が考えられています。

細っていく予測が示され、しかし予測なので、今から何とかできる・しなくてはいけないという認識、とりわけ少子化に手を打っていくこと、子育てに力点を置いた施策についてのなど、ご本人の実体験に基づくユーモアを交えた話に、会場に時折笑いを誘いながら、説得力のある講演会でした。

DVは、被害者の支援は当然として、片親家庭の増加や核家族化、また当事者自身の虐待経験などがある中、夫婦のあり方、一人ひとりに生きる力を啓蒙していくことが大切ではないかと切に感じています。



かしわ  
**柏うお～か～**  
あいネットが気になる街の事業所にお邪魔します。

# NPO法人デイヘルプ

■住所：千葉県我孫子市白山1-6-43  
 ■電話：04-7182-3744  
 ■活動内容：住宅改修（材料費のみ）、電球の取替え、雑草の刈り取り、庭木の枝切り等々。

代表者：森谷良三

我孫子市白山に NPO 法人デイヘルプがある。理事長の森谷さんとお助けマンの厨川さんにお話を聞きました。

Q デイヘルプは30年の歴史があると聞きましたが？

きっかけは、お年寄りが庭の枝を切れずに近隣から苦情を受けており、「こんなお年よりに力を貸してあげよう」と思った事でした。最初は夫婦二人のボランティアから始め、日曜大工で住宅改修、電気の交換、屋根瓦の交換等、様々な困り事の相談に無償でのりました（材料費を除く）。NPO 法人となった現在では、パソコン教室、格安で火災報知機の設置、リモートコマンド貸付等も行っています。

※リモートコマンド：手元でテレビの音声を聞けるスピーカー付きリモコン

Q 昨年の震災後、相談が増えたのでは？

震災直後は、本棚や TV が倒れた、シャンデリアが落ちた等、多くの相談があり、家に駆けつけました。特に一人暮らしの方、体の動かない方が助けを求めています。1軒、1軒、電話をかけて様子を確認しました。家財が倒れて身動きが取れない方もいました。

Q 長く活動を続けてこられた原動力は何ですか？

お年寄りのために明るく元気な高齢社会を作っていこうという思いがあります。みなさんの「助かったよ、ありがとう」という感謝の言葉もやりがいになりますね。

定年後は自由時間が多くなり、やる事がないと楽しくないですよ。地域の方がその力を発揮する機会を作れば、それが社会のためになると思うんです。自分も楽しみながらやっています。何事も楽しくないと続かないですよ（デイヘルプの方の平均年齢は67歳！）。

理事長の森谷さんは「相手の立場に立ってものを考える」事を30年間実践してきました。デイヘルプは今の日本が忘れてきている「ご近所での助け合い」を地域で実践しているように感じました。困った時は駆けつけ、耳を傾け、助け合う姿勢に、これから迎える超高齢化社会に、私自身も希望と勇気をもらいました。

## おしらせ

◇こちらのコーナーへ掲載希望の方は、あいネット(電話:04-7165-8707 FAX:04-7165-8709)まで◇

講演名	日時	場所	費用	申込み	問合せ先他
<b>柏市障害者合同避難訓練(地震対応)</b> ・対象者・柏市在住の障害当事者およびその家族  ・内容・避難所設営・避難者確認・応急手当・炊き出し・個別避難計画など	2/25(土) 10:00 ～13:00	①千葉県立柏特別支援学校体育館  ②朋生園  ③沼南育成園(桐友)(選択自由)	無料	必要	申し込み先：市立朋生園 FAX：04-7163-6682  問い合わせ：沼南育成園サポートセンター（市岡） TEL：090-3134-4936  主催：かたくり会・沼南育成園サポートセンター 協力：柏市・柏市自立支援協議会
<b>柏市自殺予防対策フォーラム2011</b> <b>「睡眠とこころの健康」</b> ※手話・要約筆記有  <b>講師：亀井 雄一 氏</b> （精神科医） （国立精神・神経医療研究センター病院）	2/25(土) 13:30 ～16:00 (13:00～開場)	<b>柏市民文化会館 小ホール</b>  交通：柏駅東口バス 3番 阪東バス/柏市民文化会館前下車	無料	必要 (先着200名)	申し込み先・問い合わせ先 <b>「自殺予防対策フォーラム申し込み」宛と明記の上</b>  柏市保健所保健予防課 〒277-0004 柏市柏下 65-1 ウェルネス柏内  TEL：04-7167-1254